

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン井手園 1		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897番地		
自己評価作成日	令和1年12月12日	評価結果確定日	令和2年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは日当たりも良く、国道を見おろす環境の良いところに立っており、バス停も近く、ご家族も来所しやすい場所にあります。入居者やご家族の要望にもできるだけ応じられる様なケアに努め、あなたが良かった！ここでよかった！と言って頂けるよう不安な心に寄り添うケアを日々心がけています。毎月の風のガーデン(認知症カフェ)では入居者が喜ばれる様なレクリエーションやお茶会など行い、地域の方々にも知って頂くような案内を掲示しています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyvosyoCd=4271101489-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	令和2年2月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人であることから、ホームに医師が定期的に往診に来るため、入居者の健康状態の把握が随時行えている。加えて、入居者が重症化した際には病院への入院がスムーズに行える連携が取れている。月に1度、地域住民との交流の場として風のガーデンを開催し職員が入居者と一緒にお菓子作りやレクリエーションを行ったり、地域住民も参加可能なバーベキューや法人全体の夏祭りなどを行ったりして積極的に交流を図っている。また、時津町の文化祭への出展や時津町と共同して防災フェスタを開催するなど地域行事への参加も積極的に行っている。さらに、入居者が過ごしやすい環境を心がけているだけでなく、働いている職員の状況を考慮し新たな勤務体制を準備するなど、働きやすい環境整備をホーム全体で行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「優しく・楽しく・元気よく」を共有し、ご入居者一人ひとりの想いをくみ取り、日々の業務にて実践しています	年1回法人全体での研修会があり、その際に理事長自ら理念についての話があり、振り返りの機会となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会へ参加や、文化祭への出店や見学など行っている。法人の夏祭りには地域の方々の参加もあり賑わっている	地域住民も参加可能な法人全体の夏祭りやバーベキューなどをホームの駐車場で行っている。また、月に1度、地域住民との交流の場として「風のガーデン」という催し物を開催している。	夏祭りやバーベキュー、月1回開催している風のガーデンなど催し物が多いものの、現状、地域住民の参加が無いとのことである。作成しているチラシなどを用いたアナウンス活動を行ってみる等して、地域住民に参加をしてもらうことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方々にも気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気作りをし、地域活動、行事に参加して馴染みの関係作りに努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居状況やサービス等の報告をし、意見交換の内容を参考に改善策を検討している	2か月に1回運営推進会議を行っている。年間のスケジュールを前もって準備しており、奇数月の第3水曜日に開催し、参加者との意見交換の場としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	時津町役場や地域包括支援センターとは日頃より連絡相談を行ない、困難事例の方の入居受け入れもしている	時津町とタイアップし、防災フェスタを行った。町長も参加し、AEDの操作方法や水消火器の訓練に参加した。また、時津町の文化祭の際には作品の出展という形で参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの研修等も受講し、職員ひとり一人が日々意識しながらケアを実践している	ホームとして身体拘束は原則行わないこととしており、現在身体拘束を行っている方はいない。身体拘束の外部研修に参加した際には資料配布を行い、内部研修は短い時間ではあるが個々に指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回の法人研修会へ参加し、不適切なケアがおきないように、お互い注意しあう関係ができ、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や会議等で個々の必要性を関係者と話し合い活用できるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安や疑問点には理解と納得を頂く為に十分な説明を心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族ご入居、地域住民代表に参加して頂き、ケアの向上に向け話し合いを行なっている	ユニットからの申し送りの用紙の中に家族からの意見を記載する項目を設けており、内容を記録に残すようにしている。意見箱を設置しているものの、家族とは日ごろから直接コミュニケーションを取っており、話しやすい雰囲気を感じているため投書は少ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議の時間を作り、ケア等に対する提案・改善策を話し合っている。また、年に3回管理者・社労士・理事長と職員との面談の場も設けている	理事長や社会保険労務士と直接話をする機会があり、職員の思いを汲み取る機会となっている。また、従来とは違う勤務体系を新たに設け、職員が働きやすいシフトを作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	能力開発面談を行い、職員が明確な目標を持って働ける環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士取得に向けた実務者研修の受講を勧めたり、ケアの知識を高める為、法人研修会を開催している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加し情報交換を行い、サービスの質向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談にて、ご本人の生活に対する意向については尋ねるようにしている。入居して間もなくは環境が変わる事で不安になるケースが多いので、職員も密に関わる事で情報収集に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や不安に思う事は来所時や電話連絡時に尋ねるようにしている。面会に訪れやすい明るい雰囲気作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居間もなくは密に関わる事で情報収集に努めている。必要であればご家族の協力もお願いしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節ごとの行事やイベントを大切にし、お誕生日会なども開催して、ご本人様が笑顔になれるよう一緒に生活を楽しんでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との意見交換を交えながらケアの方針を考えたり、職員では出来ない関わりをご家族へ協力依頼する事はある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の馴染みの場所へ外出など。自治会の行事へ参加する事で、昔馴染みの方との再会などがある	個々人の外出支援に関しては不定期ではあるものの、家族の協力を得ながら個別に対応を行っている。また、普段から入居者の友人や地元の知り合いの方の面会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間での友好関係を職員が見極めて、座席の配置など考慮するようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご本人・ご家族からの相談を受け付けたり、面会等に訪れるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のこれまでの生活状況を把握し、希望や要望に沿って生活が出来るように努めている	初回の面談と入居前に聞き取りを行っている。入居後は定期的に要望を確認したり、日頃の関わりのなかで入居者の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族からの情報を聞き、ひとり一人の生活環境に合ったサービス利用のシートを作成している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員間でミーティングを行い、日々のひとり一人の入居者様の生活や心身の状態を把握し、情報共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がよりよく生活出来る為にケアマネジャー・ホーム長が中心となって話し合い、職員間で意見を出し、現状に応じた介護計画を作成している	入居者一人一人に担当が付き、その方の状態によってプランの見直しを行っている。またプラン作成の話し合いには全職員が参加し、様々な角度から意見を抽出することで入居者の現状に合ったプランを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子やケアの実践、気づきがあれば個別に記入して、職員間で情報共有しながら、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意見を聞き、その時に応じたサービス提供している。時には気分転換の為にドライブやホームでのイベントなどに参加して頂いている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺地域との関わり合いを大切にしながら、地域の行事等に参加できるかを検討し、実行する事で日々の生活を楽しく送れるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的なかかりつけ医への受診、体調に変化があった際の報告・相談と適切な医療を受けられるように努めている	入居時にかかりつけ医の切り替えの確認を行い、家族対応となるが現在のかかりつけ医を継続して受診することも可能である。月に2回、同じ法人の清水病院が往診を行い、入居者の状態把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の入居者様の健康状態を医療連携看護師訪問時に伝え、相談している。必要時は医師へ指示を仰ぎ、対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早期に退院できるよう病院関係者との情報交換や相談に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より、ご家族を交えての病状説明を行い、情報の共有と今後の支援の方針を検討している	経口から食事の摂取が出来なくなった場合は入居の継続が困難となり、現在重度化した段階で入院調整を行っている。看取りをしていないことは入居前と状態が重度化した時に家族に説明し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを作成しており、研修会も開催し、備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	運営推進会議で、災害時に困難な事は自治会や行政へ相談している。鉄筋コンクリート造りの建物という事で、地域の方の一時避難に利用できるようにしている。非常用の水・食事を30名×3日分常備している	通常の避難訓練だけでなく、停電等の非常事態を想定した訓練も実施している。また災害時には地域住民の一時避難場所としてホームを提供するなど、周辺住民との協力体制の構築が出来ている。	ホーム内の見える場所に避難経路図の掲示がされていなかった。実際の災害時にスムーズな避難が行えるよう、各ユニットの目に入る場所に掲示することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内身体拘束虐待防止委員会による各ユニット月間目標設定などを活用し、言葉かけに関しても人格を尊重したものとなるよう努めている	居室へ入る際にはノックと声掛けを徹底している。入居者の写真等の掲載では、広報誌用とは別にSNS用の同意書も作成し、それぞれ了承を得るようにしてプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の言葉に耳を傾け、極力否定しないように心かけている。各入居者様の希望を確認する為にも問いかける事を努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様が職員に遠慮なく頼みごとが言えるような雰囲気作りを心かけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性で外出時はスーツを着用される方や女性でスカートを着用される方など、各自の好みに合わせて支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	足のふらつきや視力障害の方も多く、一緒に食事の準備や片づけは出来ていない現状である。洗濯物を畳んだりの作業は手伝って頂いている	月に1回開催しているお茶会では入居者の意見を反映した手作りのお菓子を提供している。またピクニック等の外出時にはお弁当を作り、外出先で食事が出来るようにするなど工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立作成が行われており、バランスが取れたメニューになっているひとり一人に合わせた形態で召し上がって頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を外して頂き、歯ブラシやスポンジで口の中をご自分で口腔内の汚れを取り除き、義歯を自分で洗える方には洗って頂き、出来ない方は介助している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンの把握に努め、誘導や言葉掛けをしている。お1人で行かれる方も尿取りパットの汚れ等あれば交換するよう努めている	入居者一人一人の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄が出来るように誘導している。また居室内に備え付けのトイレがあり、夜間でもトイレ誘導が出来る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランスよい食事を摂って頂く、水分を摂る、運動を促すなど対応している。それでも便秘が解消されない場合は医師に相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週間予定で曜日を決めているが、体調不良等で入浴できなかった場合は、別日に入浴して頂くよう努めている	週3回、入浴の提供を行っている。各ユニットで入浴実施の曜日を決めているが、入居者の希望や体調によっては日程を変更するなど入居者のことを考えた入浴支援を提供できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜中電気やテレビを点けたまま眠りにつかれる方には、ご本人の意見を確認し、消灯時間を設けたり等、その方にあつた対応に努めてる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋あるいはお薬手帳の説明書を確認し、副作用・用法用量について把握している。薬剤師との居宅療養管理指導により、相談・報告を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んで頂いたり、歌を歌うのが好きな方には音楽。散歩の付き添いなどしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春秋には全体でピクニックへ出かけたり、ご家族に協力して頂いて外出や外食をしたり、または町内行事に参加している	時間がある時に、近くの散歩の他、ホームの駐車場が広いので、天気が良い日は外でお菓子を食べるなどしている。また入居者からの要望があれば車を出しての外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理するお金は上限金額(3千円)を設定させて頂いている。事業所内の自動販売機を利用する方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいなどの希望を言われた時は事務所から電話が出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によってホールの飾りつけや空調調整などの工夫している	毎日清掃を実施している。季節に応じた飾りつけを各ユニットで行い、入居者にも飾りつけの作成を協力してもらっている。また日中は共用空間に音楽を流しており、居心地のいい環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、リビングで人と話をしたり、歌ったり、御飯を食べたり過ごす事が出来る		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていたソファや家具、食器や写真などを持ち込んで頂き、過ごしやすい環境づくりに努めている	入居者の許可を取り、毎日清掃実施している。居室内に備え付けてあるトイレも毎日掃除し、清潔な環境づくりに努めている。家具類の持ち込みも火器や危険物以外は許可している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方によって見やすい表札を作ったり、はさみ等の刃物は職員管理とさせてもらっているが、使う時はその都度渡せるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン井手園 2		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897番地		
自己評価作成日	令和1年12月10日	評価結果確定日	令和2年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々、悩みや不安を抱えられている入居者様の心に寄り添い、入居者様も職員も共に楽しみきを共有し、笑いあえる生活が出来る支援を心がけています。入居者様の言葉を引き出し、ご本人が今何を望んでいるのか、職員ひとりひとりが意識し、サービスの向上に努めながら安心して頂ける事業所を目指します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4271101489-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和2年2月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰が見ても分かりやすい事業所理念「優しく・楽しく・元気よく」を掲げ、日々の職務に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会敬老会参加や文化祭の作品出展、お祭りの参加等を通して、地域との繋がりを深められるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、役場へ認知症の方々に対する理解等を話し、意見交換した事を活かすよう努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容を基に、頂いたご意見について検討話し合いにより、ホームの改善につなげるべく努力している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場、地域包括支援センターと日頃より連絡、相談を行っている。ホームの入居状況や見学の問い合わせがある		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に繋がらないケアを意識し、一日を通して入居者様の行動に危険が無いかに注意しつつ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めるべく日頃より研修会やケア会議等に参加し、検討話し合った事を今後のケアに活かしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日頃の研修会や会議等で話し合いを行い、それを活用すべく学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットを用いて説明する事で不安や疑問を解消できるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご入居者、ご家族、地域住民に参加してもらっている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との個人面談や数人単位と話す機会を作り、運営・日頃のケアに関する意見交換を行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の小さな疑問にも理解できる説明を行い向上心を持って働けるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力を十分に発揮できるよう、法人内で定期的に研修会を開催している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	時津・長与町のグループホーム連絡協議会に所属しており、そこでの意見交換により情報を得ている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安や想いを傾聴し、寄り添い安心感を与えられるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困っている事を傾聴し、その要望に応えられるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケア会議等を通して、ご本人やご家族の意見を伺い、今後のサービスに活かせるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で一緒に会話したり、テレビを見たり、洗濯ものを畳む事で、暮らしを共にする想いで取り組んでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡相談を行い、ご家族にとってより良い生活環境になるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方がいつでも面会へ来られたり、外出出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームのご入居者同士で、ピクニック、レクリエーションを行い、ホール内でも仲良く過ごせるような環境作りとその支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後のご本人・ご家族かたの相談、ご意見にも対応するよう努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り、ご本人の希望を取り入れるよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それまでのご本人の生活状況や好きなこと、特技等を聴いて、適したケアを心がけています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の出来る事出来ない事について把握に努め、持っている力を活かせるよう支援しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットにて会議を行い、職員の意見やご本人、ご家族の意見を聞き、介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録として、ケアプランに沿って記録し、その中で気づきを話し合い、介護計画の見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各ユニットの職員で話し合い、可能な限り、ご本人やご家族のニーズに対応できるように取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加できるように支援し、入居様が楽しく日々を送れるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な受診に加え、不調時や眼科・歯科・耳鼻科等の専門医院にも受診できるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックと入居者の生活状況等医療連携看護師訪問時に情報提供、支援に関する相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療前に主治医より入居者様へ説明を行っている。また早期退院できるように相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、重要事項として方針と対応に関して十分に説明を行い、納得・理解を得ている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故時に備え、研修会も開催されている。日頃より協力医療機関とも様々なケースについて話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	入居者様を迅速に避難させられるよう定期的に避難訓練を行っている。防災委員会による定期的な郷祭せつみの点検とフロア、居室の確認も行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様ひとりひとりを尊重し、言葉を引き出せるような丁寧な対応と言葉使いで支援しています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の想いを傾聴し、希望要望を引き出せるよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事等ご本人の体調や希望にあわせるよう心がけ、その方に合わせた生活ができるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な範囲で、ご本人の好みに合わせ、希望に合わせた身だしなみ、おしゃれができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの好みを献立に取り入れられるよう、管理栄養士と話し合ったり、その方の状態に合わせた食事提供を行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の摂取量の記録を取り、栄養バランス、水分量が確保できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、入れ歯の洗浄を行って頂き、自力で困難な場合は職員が口腔ケアを行い、清潔保持が出来るよう支援している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力、日中はトイレでの排泄支援を行い、ひとりひとりの排泄パターンに合わせ失敗やオムツ使用を減らせるよう支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中適度な運動、水分補給を心がけ、便秘予防できるよう支援している。便秘症の方に関しては主治医へ相談し、服薬の調整等を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ひとりひとりの体調や希望、プライバシー等を考慮しながら、入浴支援が出来るよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	極力、日中は起きて過ごして頂くよう言葉かけ、関わりを持つようにしながら、ご本人の体調や習慣にあわせ、休息して頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を保管し、随時確認できるようにしている。また、体調の変化にあわせ、いつでも医師と連携相談ができるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の能力、生活歴の把握に努め、日常の会話やレクリエーション内で活かせるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調、希望に合わせ、ホーム周辺の散歩等に職員が同行したり、ご家族との外出が出来るよう支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の周辺症状からトラブル等の原因となりかねない為、ご本人が管理できる金額を指定させて頂いている。自動販売機で飲み物を購入される方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・知人の方との関係が維持できるよう電話やお手紙でのやり取りについて支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感のある共有空間とならないように、照明、飾り物等について考え、快適で生活感のある環境作りに努めています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の想いを考慮しながらも、日中居室に閉じこもりがちにならないよう、職員の関わりはもちろん、他の入居者様と楽しく交流できるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前よりご本人が使い慣れたものを持ち込んで頂くようにご家族には協力をお願いしている。ご本人の能力に合わせて心地よく生活して頂けるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒等の事故防止の為、手摺の設置、フロアのソファやテーブルの設置等をひとりひとりの身体機能に合わせて工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101489		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン井手園 4		
所在地	長崎県西彼杵郡時津町元村郷897番地		
自己評価作成日	令和1年12月9日	評価結果確定日	令和2年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念である「優しく・楽しく・元気よく」笑顔をもって、ひとり一人に合わせたケアに取り組み寄り添い毎日のホーム生活が充実し、楽しく過ごして頂けるように心がけています。地域交流の為の認知症カフェ「風のガーデン」を毎月開催し、季節ごとのイベント・レクリエーション等行っています。医療機関との連携を密にする事で健康管理に努め、安心して生活できるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4271101489-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和2年2月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に1度理念についての研修会を開催し、管理者と職員は理念を共有し、実践に繋げるよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会や文化祭への出品を継続している。また恒例となった法人の夏祭りには毎年地域住民の方々も来て下さっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へホームを知って頂くよう運営推進会議をはじめ、役場や包括支援センターとの連携や意見交換に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見・要望を参考により良いサービスの提供を目指し改善策を検討している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場や包括支援センターとは日頃から連絡・相談を行っています。地域包括ケア会議での困難事例となった高齢者の入居受け入れ等も行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会活動をはじめ、年1回の研修会を通し、身体拘束を行わないケアに努めています。建物玄関の施錠は夜間防犯上行っているが、日中は開放されている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回法人研修会を開催しています。また、日頃から委員会にて不適切なケアについて考えて、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や会議等で話し合い、それを活用し実践できるように努めています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、運営規定、重要事項説明書を使用し説明しています。不安や疑問点は分かりやすく説明する事を心がけ、十分な理解、納得して頂くよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご意見箱を活用している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から会議の場を設け、ケア等に関する提案、改善策を話し合っている。また年に3回管理者・社労士・理事長と職員で、職員の能力向上に向けての面談の場が設けられている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休みを受け入れ、仕事とプライベートの充実を図り、職員の体調管理ができるように努めている。また、能力開発面談を年間通して行っており、職員が明確な目標をもって働ける環境作りを努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人研修会を開催し、ケアの見直しや知識を高めたり、外部研修や介護福祉士取得に向けた実務者研修の受講を能力開発面談にて勧めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所間で研修を行ったり、入居者のケアに対する資料を各ユニットに配布したりと情報交換する機会を設けている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、ご本人及びご家族が抱え込む不安や要望、これからのニーズなどを聞き取り、入居日から安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談からご家族の悩みや不安をお聞きし、入居日にはケアプランの説明を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談から入居日までの期間に電話連絡等で十分に会話を行い、ご本人とご家族が望むサービス提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が何が出来て、何が出来ないのか。どの程度のケアが必要か考え、可能な限り自立した生活を送って頂けるよう職員間でも連絡を取り合いながら努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームのイベント等の参加、外出・外泊の支援等、ご本人・ご家族の関係を継続して頂くよう支援しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問やご家族の希望される際には連絡が取れるように支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わりが持てるように職員が間に入ったり、関わりながら孤立しないよう関係作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談やご意見は快く応じ、素早く対応するよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、ご本人の今までの暮らしなどをお聞きし、その意向に沿って生活が出来るよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や生活環境、介護サービスの利用状況等の情報を受け、フェイスシートを作成している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り、ご本人に目を配り、過ごし方や状況を記録し、職員間での情報共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の会議やケア会議を基にモニタリング、アセスメントを定期的に行い、介護計画作成の際には、担当者・ケアマネージャーが話し合いプランを作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはひとり一人の日々の状況やケアプランに沿ったケア提供時の反応、様子が記入されている。計画の見直しにも活かされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況などに応じて病院受診の付き添いや外出時の見守り、気分転換の散歩やドライブ等、その時々気持ちに応える事が出来るよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加できるかを検討し、実行する事でご本人が楽しく日々の生活を送れるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な受診や受診が困難な方には、主治医が訪問してくれている。また体調が悪い時や眼科、歯科、耳鼻科等の専門の医院にも受診が出来るように支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや、日常の入居者の状況等医療連携看護師訪問時に情報提供及び相談している。また、体調変化時は協力医療機関の看護師へ連絡し、主治医の指示を得るよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要な際には、往診時や受診時に主治医より、ご本人へ説明している。また、短期で退院できるように相談しており、主治医の理解を得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りに関する指針を用い、対応について説明し、理解を得ている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時に備えて研修会も開催している。また日頃より協力医療機関ともケースについて話し合いを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害発生時に入居者様を迅速に避難させる事が出来るように定期的に避難訓練を行っている。また、運営推進会議にて地域との協力関係をお願いしている。防災委員会にて定期的にフロア及び居室のチェックを行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの気持ちを尊重し、プライバシーを損ねないように丁寧な対応と言葉使いを心かけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の想いや希望、要望が表現できるように寄り添い、ゆっくりとお話を傾聴し、本人の言葉で表現できるように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方らしい生活が出来るようにひとり一人のペースに合わせて日々を過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人おひとりの好みに合わせ、その方が望む身だしなみやおしゃれを楽しんで頂けるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットで調理し、食事が出来るまでの匂いなどを感じて、今日はなんだろうと楽しみを持って頂けるように支援している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立をたて、栄養のバランスやお一人おひとりの状態に合わせた摂取量(食事量・水分量)、食事形態で提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯の洗浄を行って頂き、困難な方には職員が介助により、清潔が保てるように支援している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの訴えを尊重し、排泄の支援を行っている。訴えの無い方は排泄パターンを見極め支援に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量や水分補給、日中の運動などを心がけ予防に努めている。排便が無い時は主治医の指示にて服薬調整等も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時の体調や希望など、その時の状況等を考慮して入浴支援を行っています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの習慣や体調などその時の状況に合わせて休息を取って頂くよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は確認出来るところにあり体調により医師に相談でき、服薬の支援と保管は職員がしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴の把握に努め、レクリエーション等でホームでの生活が充実するよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の天候や体調、希望に合わせて職員付き添いでホーム周辺を散歩している。また、ご家族にも外出の協力を得ている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理出来る金額には上限を設定させて頂いている。買い物等で必要な際はご家族へ相談するようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも家族や親しい間柄の方と電話や手紙のやり取りが出来るよう支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は生活感もあり、明るく居心地の良い環境作りに努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では入居者同士や職員とコミュニケーションと取れたり、独りでも居心地良く過ごせるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具や小物等。居心地良く生活して頂けるようご家族に協力して頂いている。また身体機能や認知症状に合わせた工夫をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置や車イスのスペースを確保したソファテーブルの配置など安全に生活できるよう工夫している		